

7月3日 年間第 14 主日

イエスのための使者

ルカによる福音書 10 章 1～12、17～20 節

¹その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。²そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に必要なさい。³行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。⁴財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。⁵どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。⁶平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。⁷その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。⁸どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、⁹その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。¹⁰しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。¹¹『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。¹²言うておくが、かの日には、その町よりまだソドムの方が軽い罰で済む。」

¹⁷七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」¹⁸イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。¹⁹蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。²⁰しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んでではない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

他の朗読：イザヤ 66:10～14 詩編 66:1～7, 16, 20 ガラテヤ 6:14～18

Lectio …読む

ルカだけがイエスの宣教におけるこの大切な出来事について語っています。イエスは十二人の弟子に加えて更に七十二人の弟子を選んで、ご自分がエルサレムに向かう途上で寄るつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされます。古代の法律的な必要条件によれば、証言や伝言は最低二人以上の証人や使者によってなされなければ、信頼できるものとして認められなかったのです。

その人数は重要な意味を持っています。イスラエルの民を導く助けとするため、神がその上にご自分の霊を授けられるようにと、七十人の長老を集めたモーセへとつながっているからです（民数記 11 章 16 節）。今回イエスは神の癒しの力と共に神の国を告げ知らせるため、七十二人（ある訳によると七十人）の弟子を派遣します。

神の国の支配は、この世の権力と全く異なるものです。神の国では平和と謙遜、そして神により頼むことによって必要が満たされるのです。しかし権能と権威がないわけではなりません。そのため、イエスはご自分の使者に癒しと悪霊を支配する力を与えられるのです。

イエスは十字架につけられることになるであろうエルサレムに向かっていました。その使命は差し迫ったものであり、現在においても差し迫っているものです。イエスの福音を受け入れない者は審判の日にイエスの前で応えなければなりません。大切なのは、私たちの「名が天に書き記される」ように福音を受け入れることなのです。

Meditatio …黙想する

あなたの共同体のメンバーは、どのようなときに福音と神の国についての話を聞く機会があるでしょうか。

私たちの大多数は外国で宣教者となるように呼ばれてはいませんが、私たちは皆、神の救いの福音を分かち合うために何らかの役割を果たすことができます。もちろん、私たちの証しは私たちの言葉を超えるものです。私たちが日常生活をどのように過ごし、どのように他の人々に気を配っているかも大切です。このことについてあなたはどのように答えるのか、考えてみましょう。

イエスが神の国について話すときに、それはどんなことを意味しているとあなたは思いますか。

Oratio …祈る

わたしたちも天に名を書き記されていることに感謝しましょう。

「収穫のために働き手」が増えるように、そして、自分がそのために何ができるかということについて祈ってみましょう。もし宣教者として働いている人を知っているなら、今その人のために祈る時間を持ちましょう。

Contemplatio …観想する

ガラテヤ 6 章 14～18 節のことばについて観想してみましょう。「世に対してはりつけにされている」と「新しく創造される」という考えに挑み、希望をいただきましょう。